

## EMT981 再生系の再構成(8)

### 1. はじめに

前報(7)に引き続き、システムを替えて EMT981 の試聴を行います。

### 2. EMT981 の試聴方法

今回、TELEFUNKEN L-61 での試聴を行います。

EMT981 の再生では、前報(7)と同様に前報(2)の再生ルートとします。

EMT981(\*)→CRV-555(\*\*)→DAC-1→TruPhase

\* : GPS-777 より CCD-6 経由でクロック入力

\*\* : EMT981 のクロックアウトよりクロック入力

TruPhase 以降は、ExPro SV-1 経由で、駆動アンプの IPC 1029 に入力します。

再生する CD は下記とします。

ARCHIV POCA-2009/10

J.S.Bach ミサ曲口短調

カール・リヒター指揮ミュンヘンバツハ管弦楽団

Deutsche Grammophon UCCG-9719/20

J.S.Bach Sonatas & Partitas

ヘンリク・シェリング

S&R AVCL-25005

J.S.Bach あなたがそばにいたら他

森麻季 (ソプラノ) 山岸茂人 (ピアノ)

GENUIN GEN 110209

J.S.Bach オーボエ協奏曲

ラモン・オルテガ・クエロ(オーボエ)

ペーター・ライナー指揮ポツダム室内アカデミー

### 3. EMT981 の試聴結果

この組み合わせは、ゲインが小さく、音量を上げられないのが欠点ですが、音質は次のとおりです。

ミサ曲口短調は、バロックヴァイオリンの伴奏でのアルトのアリアやフルートトラヴェルソの伴奏でのソプラノとテノールの2重唱などはバランスよく、通奏低音もしっかり聴こえ、音量の関係で迫力に欠けますが、合唱の分離もかなりの程度に実現できています。

**Sonatas & Partitas** は、ソフトタッチの音色の聴きやすいシェリングのボウイングです。

森麻季は、楚々として透明感のある森麻季の歌唱が聴けます。

オーボエ協奏曲は、バロックオーボエとバロックアンサンブルがバランスよく柔らかく響きます。

#### 4. まとめ

クロック入力した EMT981 と DAC-1 の相性の良さで、ボーカルや小編成の曲は柔らかい響きがありますが、合唱が入ったような大編成の曲は音量の関係で迫力にかけるところがあります。

以上